

発行 日本音楽療法学会

理事長 日野原重明 副理事長 松井 紀和

事務局 〒105-0013 東京都港区浜松町1-20-8 浜松町一丁目ビル6階 TEL 03(5777)6220 FAX 03(5401)0337



## 音楽と絵画の世界の 融合から生まれるもの

顧問

徳田 良仁

ジャズの歴史の中で突出した巨人と言え、マイルス・デイビスだが、彼の個展がニューヨークのネリノ・ギャラリーで開かれた。

デイビスは1982年に心臓発作を体験したのち右手の自由がきかなくなり、そのリハビリテーションの過程で絵を描き始め、その結果が個展につながった。その絵画作品を見ると、いずれもが豊かな色彩と独自の形態によって、迫力あるものとなっている。つまりそこには彼の音楽がそのまま絵画表現となって、イメージを解放し、創造力豊かな生命感が躍動している。それはまさに音楽と絵画の世界の融合したものの現出であり、極めて興味深い表現となっている。

また、この音楽と絵画という二大ジャンルの相関性についての検討に視点を当てて見るとパウル・クレーがあげられ、彼ほどその究明に多くの時間を割き、精力を傾けた者はいない。クレーの9000点を超える絵画や、遺された膨大な量の文章からこの問題に対する問いが発せられている。

クレーは11歳のときにはすでに一人前のヴァイオリニストであり、ベルリン交響楽団のエキストラとして演奏する才能を発揮していた。クレーが芸術の経験として決定的に重要な影響を得たものは音楽体験であった。

それは彼がヴァイオリンやヴィオラを弾き、それを職業的能力にまで鍛えあげたということではない。クレーにとっては音楽そのものの体験によって心と精神を確認し、自分の声を聴き認識することだったのである。

クレー作品の制作特徴は、対位法、バリエーション、転回、十二音セリーなど、数学的・抽象的な形式に基礎が置かれている。つまり音楽の作曲法と合致しており、合理的に造形されたそれらのフォルムが、音楽の場合と同様に内面的な気分や情動をかきたてる担い手となったのである。

クレーの作品に即して彼の絵画の中の音楽性を見いだしてみよう。1909年に、ペン・インクを用い水彩で、《困惑のピアニスト―風刺・現代音楽の戯画》を残している。クレーがピアニストを音楽になぞらえて、同時代の作曲家たちの行き

過ぎをカリカチュアライズしたものである。

1930年には《リズムカルなもの》と題して油絵を描いている。格子状の色面がゆがんで、微妙な動きを表現している。

クレーの蒼い時代のもは、ことに即興的なものとして、身体感覚の中にある音楽的リズム、音階などが絵画作品として示される。

《ポリフォニー》(1932)は音楽と絵画の問題の全てを包含する解答を表現した作品であった。「自然に秩序づけられた運動は、肉眼でなく耳によってとらえられるものである」と述べ、絵画的表現より音楽的表現をいささか優位なものとして捉らえていると思えるのである。

しかし、同時にクレーにとって、音楽と絵画とは同質に近く、また共時的な動因でもあり感覚でもあり、さらに表現するという行動として機能しているようである。彼の音楽的資質が絵画芸術に多大な影響を与えたというより、音楽と絵画が多く作品の中に表裏一体をなし、一つの完全な存在として提示されていると見なすべきものであろう。

デイビスにしてもクレーにしても、もしも彼らに音楽がそして絵画がなかったらと考えると、音楽史も美術史も変更を強いられるかも知れない。また他にも多くの芸術家たちが、心と精神の葛藤を己れの芸術を表現することで、現実とのバランスを保ち、作家として人間として生きざまを全うすることが可能であったことか。今日のわれわれの置かれている社会的・精神的状況のなかで、改めて“癒し”の力を考えてみる時、芸術のもつ力を強調したいと思う。人は誕生と同時に音という“言葉”を、そして“音楽”をもった、そして絵画に祈りを込めた。これらの融合するところに癒しの力が生まれるのである。医療の世界では、今日とくにEBMやら資格認定やらと、病と治療と療法とに厳密な検証を提示することが要求されている。これは当然のことであろう。したがってわれわれも厳しい視座に立ち、多くの研鑽の上で、療法としての芸術のあり方を追求して行く姿勢を改めて再認識し、一層の治療としての技法の究明に力を尽くしたいと思う。

## ■ 日本音楽療法学会 音楽療法士（補）試験実施要項（抜粋） ■

わが国においては1997年に全日本音楽療法連盟の資格認定制度が開始されました。当時、音楽療法士養成課程を有する学校はきわめて少数であり、当然ながら試験制度は採択されませんでした。代わりに、現在にいたるまで臨床の経験を重視した暫定的な処置による音楽療法士認定がなされてきた経緯があります。

しかし同連盟は暫定的な認定制度と並行して1996年に大学や専門学校での教育へのガイドラインとして音楽療法士養成カリキュラム96を制定しています（現在は改訂されたカリキュラム01が制定されています）。その後、幾つかの大学、専門学校などにおいてこのガイドラインを基本にした音楽療法士養成コースが設置され、近年になりそれらのコースの卒業生が誕生するようになりました。

これらの卒業生は学会が定めたカリキュラムに基づいて教育訓練を受けた者であり、これらの教育を受けていない者と

は異なる基準で資格認定が行なわれなくてはならないはずで

す。以上の経緯により、学会により教育カリキュラムの審査を受け承認された大学や専門学校の音楽療法コースの卒業生を対象に音楽療法士（補）認定試験が2001年度より実施されることとなりました。

この試験は各受験者の音楽療法に関する全般的な知識を指定カリキュラムに基づき広い範囲にわたり尋ねるもので、受験生の基本的な知識と能力、また音楽療法士としての適正を確かめる目的で行なわれます。

この試験に合格した者は日本音楽療法学会認定音楽療法士（補）の資格を得ることができます。この資格は、本人の音楽療法活動の臨床経験が3年をこえる時点で改めて学会に申請すれば（臨床事例報告審査と面接を経て）正式に音楽療法士として認定されます。

1. 試験の日時および会場：《2005年度は→2006年1月15日、日本教育会館》
2. 試験科目：音楽療法科目を中心に、カリキュラムガイドライン01に含まれている教科全般とする。
3. 受験資格：本学会から教育カリキュラムの審査を受け承認された大学ならびに専門学校等の音楽療法コースの卒業生および見込生。
4. 受験手続：
  - (ア) 学会事務局への受験申請を行なう。なお記入に際しては戸籍に記載されている氏名を使用する。
  - (イ) 事前に受験手数料1万円を日本音楽療法学会に振り込む。
  - (ウ) 申請には①受験申請書（学会より在学の教育機関に送付されている）、受験票送付用の②返信用封筒（長形3号サイズ、自分の宛先を記入し、90円切手を貼付）、③単位取得証明書および④振込控のコピーを同封のうえ日本音楽療法学会へ送付する。
  - (エ) 受験時には受験票と本人の写真の付いた証明書（学生証、運転免許証など）を持参する。
5. 試験はマークシートを用いて多肢選択形式で合計150問（試験時間は合計2時間30分）  
受験票、筆記用具（柔らかめの鉛筆と消しゴム）および時計のみ卓上に置くことができる。
6. 受験申込期間 《2005年11月21日（月）～12月2日（金）までに学会事務局へ必着》
7. 合格者の発表 《2006年2月1日（審査結果は受験者本人に文書にて通知）》

## 第5回日本音楽療法学会学術大会（名古屋）へのいざない

大会長 柏木 哲夫

春たけなわのよい季節を迎えました。皆様それぞれにお元気に活躍のことと存じます。

さて、第5回学術大会（名古屋）まで残すところもう5ヶ月を切りました。かなり多くの参加者をお迎えするというところで、戸惑いつつも、実行委員一同、一丸となって協力しつつ準備に邁進しております。皆様のご協力を得て、大会を盛り多きものにしたいと願っております。大会の内容につきましては、第3次案内に詳しく記載してありますのでご覧下さい。

すでにお知らせ致しておりますように、第5回大会のメインテーマを「いのち・こころ・いやし」と音楽療法とさせていただきます。このテーマは大会長をお引き受けする時、すでに私の中にあり、実行委員会の中でもお認めいただきました。実は「いのち・こころ・いやし」の三つは金城学院大学の教育目標のキーワードなのです。そして、私の音楽療法との関わりの中から、この三つのキーワードは音楽療法がめざすものと深く関係していると感じています。そこで、プログラム全体をこの三つのキーワードを意識しながら組む事に致しました。まず、特別講演の講師にノンフィクション作家の柳田邦男先生におこしいただくことにしました。ご存じのように柳田先生は「いのち・こころ・いやし」に関わる多くの著書を出版されており、加えて音楽に深い造詣を持っておられるので、メインテーマにふさわしいお話をうかがえるのではないかと期待しています。

大会長講演として、メインテーマと同じ「いのち・こころ・いやし」と音楽療法という題で、私のこれまでの精神科医、ホスピス医としての経験から学んだ事を話させていただきます。シンポジウムは栗林文雄先生に企画をお願いし、「音楽とスピリチュアリティ」を計画しました。三人のシンポジス

トはそれぞれの立場から、ユニークな発言を下さる事を期待しております。一般研究発表にも多くの会員の参加を期待しています。講習会は門間陽子先生に責任者になっていただき、今回は初めての試みとしてレポート作成、添削というプログラムを組む予定です。また、受講しやすいようにコース制を取り入れることに致しました。その他、ピアノ演奏や、ハンドベルの演奏も予定しています。

これまで都築裕治先生が実行委員長として、学会の準備を引っ張って下さいました。金城学院大学の人間科学部で実際に音楽療法の講義をしておられる渡辺恭子先生も準備委員長として頑張ってください。総務的な仕事は小川尚子先生が、シンポと研究発表は栗林文雄先生が、講習会は門間陽子先生がそれぞれ分担して下さいました。その他、お一人お一人のお名前を挙げる事はできませんが、東海支部会員の力を結集して準備を進めてきました。

会場の金城学院大学は2005年4月から薬学部がスタートします。薬学部棟の隣に新校舎も建設され、大会の会場として使用する事になっています。最新の設備がありますので、皆様に喜んでいただけるのではと思っております。食堂も少し拡張されましたので、懇親会には当初の予定よりも少し多くの方に参加していただけるものと思っています。

2005年3月に名古屋では愛地球博がスタートしました。多くの人が名古屋を訪れ、名古屋は今とても活気づいています。

大会が開催される9月9、10、11日あたりはホテルの部屋がとりにくい可能性があります。なるべく早めに予約される事をお勧めいたします。

今後さらに慎重に準備を進め、9月には多くの方を名古屋にお迎えしたいと思っています。大会当日お目にかかれる事を楽しみに致しております。 （開催9月9日～11日）

## ■ 2005年度講習会のご案内 ■

研修・講習部会長 智田 邦徳

学会発足以来、各支部でも支部学術大会などで活発に講習会を開催するなど、会員の皆様が研鑽を積む場所も増え、内容に関してもバリエーションが豊富になってきております。選択の幅が増えたことで、かえって「自分はこれから何を学んでどんな講習を受けていけばよいのか」と迷う方もおられると思います。当部会はそんな人々の指針となるような内容を検討し、2005年2月26日、27日の講習会では二つの大きなテーマ「音楽療法における音楽の重要性」「症例発表のやり方」を取り上げました。

特に症例発表に関しては、査読者からの視点という切り口から複数の熟練した先生方に討論していただき、会場と一緒に考えるという方法で行いました。参加した方からはおおむね好評だったと聞き安堵しております。

今回は2006年2月18日と19日に東京の日本教育会館一ツ橋ホールで開催される予定です。会員の皆様からのご意見を参考に、より充実した内容にしていきたいと思っておりますのでご期待下さい。詳細は秋頃お知らせします。



## ■ 2005年度日本音楽療法学会プロジェクト研究の募集 ■

学術・研究委員会

日本音楽療法学会では2002年度より、音楽療法に関わる学術研究を振興するためプロジェクト研究を行っております。2005年度も引き続き下記の要領で研究を行います。

つきましては、障害、疾病、予防医学などの領域における音楽療法の研究を学会員より公募し、採択された研究には助成金を交付します。

1) 応募〆切：2005年8月31日

2) 研究領域

- ①実験研究
- ②臨床研究
- ③症例研究
- ④その他

3) 応募方法

所定の研究計画書を事務局に申請し、必要事項を記入のうえ提出してください。

なお、助成金は一研究につき上限100万円とし、会計報告を必要とします。

4) 審査方法

「プロジェクト研究委員会」にて審査し、理事会で採択を決定します。

5) 研究報告

採択された研究は、2006年度大会で中間報告し、2007年度大会で最終報告をしていただきます。

さらに2007年度中に本学会誌へ原著論文として、投稿することが義務付けられます。

6) 留意事項

研究遂行にあたっては、科学的実証性を重視し、かつ本学会の倫理綱領を遵守してください。

研究計画書にコピー3部を添えて提出してください。

多くの研究者に助成したいので、同一の研究者が2年連続して採択される場合は助成金を半額とし、3年連続は採択しません。

《申請・応募先》

\* 研究計画書様式はA4サイズの返信用封筒に宛て先を記入して200円切手を貼り、日本音楽療法学会事務局へ請求してください。

## 学会事務局からのお知らせ

### 第6回日本音楽療法学会学術大会開催決定のお知らせ

- 日時：2006年9月1日（金）・2日（土）・3日（日）
- 会場：宮城学院女子大学（宮城県仙台市）
- 大会長：遠藤安彦（宮城学院女子大学教授・日本音楽療法学会東北支部長）、  
実行委員長：智田邦徳（日本音楽療法学会理事）、大会事務局長：須佐涼子（日本音楽療法学会評議員）
- 大会テーマ：未定
- \*大会案内は順次お知らせします。

### 2005年度資格審査、資格更新審査のお知らせ

#### 資格審査

- 第10回の資格審査のための申請受付期間は、2005年10月3日～10月17日です。
  - \*17日（月）必着
- 必ず日本音楽療法学会版の申請書（認定規則）を取り寄せて申請してください。
  - \*申請書（認定規則）の取り寄せ方法  
240円切手を貼った返信用封筒（A4サイズ、必ず宛先を書いてください）と500円の定額為替を同封して、事務局へお申し込みください。（会員のみが配布対象です）
  - \*書類審査結果は11月下旬に通知します。なお、書類審査合格者には面接試験（12月17日（土）・12月18日（日）のいずれか1日、会場は東京）の案内が同封されます。

#### 資格更新審査

- 今回は第5回認定者が対象となります。
- 第5回の資格更新審査のための申請受付期間は、2005年10月17日～10月31日です。
  - \*31日（月）必着
- 対象となっておられる方は事務局よりお送りする申請書類（資格更新規則／同細則の日本音楽療法学会版）にて申請してください。また、申請書（資格更新規則／同細則）を紛失された方は上記、認定規則と同じ方法でお取り寄せください。
- 猶予を申請される方も上記の受付期間に申請してください。

いずれの最終審査結果も2006年2月初旬に通知されます。

また、証明書類は現物とコピーの提出となりましたのでご注意ください。現物は返却しますので、必要な切手を貼り宛先を書いた封筒（A4サイズ）を同送してください。切手の額については重量によって異なりますので郵便局にてご確認ください。なお、配達記録にて返却しますので通常料金に210円加算して切手を貼付してください。

なお、各規則の内容に関するご質問は、事務局では判断しかねますのでご遠慮ください。

### 会費（年会費）納入のお願い

2005年度新年度が始まりました。年会費は別便にてお送りしました専用の振替用紙にて早めにお納めいただきますようお願いいたします。

正会員 10,000円      学生会員 6,000円

購読会員 6,000円      賛助会員 50,000円／1口

振込先 郵便振替口座      ○ 加入者名：日本音楽療法学会

○ 口座番号：00120-9-657711

### カリキュラムガイドライン01の取り寄せについて

120円切手を貼った返信用封筒（B5サイズ、必ず宛先を書いてください）を同封して、事務局へお申し込みください。

## ■ 第4回認定音楽療法士（補）認定試験問題解説集が発行されました

---

2001年に発表された「カリキュラムガイドライン'01」適用の音楽療法コース卒業生を対象に、2005年1月16日、第4回の認定試験が実施されましたが、この試験問題の解答と解説集が発行されました。昨年度（2005年1月16日）の受験者の方には事務局からお送りしますが、それ以外の方で入手希望の方は200円切手を貼った返信用封筒（B5サイズ、必ず宛先を書いてください）と1,000円分の定額為替を同封して、学会事務局へお申し込みください。

## ■ 学会誌バックナンバーのお求めについて

---

日本音楽療法学会、日本バイオミュージック学会および臨床音楽療法協会の学会誌のバックナンバー購入につきましては学会事務局では取り扱っておりませんので下記へお問い合わせください。

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-21 アカデミア・ミュージック株式会社

TEL: 03-3813-6751 FAX: 03-3818-4634

## ■ 事務局への各種お届けについて

---

現在学生会員の方で教育機関を卒業された方は、正会員への会員区分の変更が必要です。事務局まで区分変更の届出をお願いします。正会員から学生会員へ変更を希望される場合も事務局へ届け出てください。（学生証のコピー添付）

また、市町村の合併により住所に変更があった会員の方も、事務局まで住所変更を届け出てください。

## ■ お詫びと訂正

---

学会ニュース8号（2004年10月31日発行）の5ページ右段、議題 3）理事長選出の件、の文中に間違いがありました。お詫びして訂正します。

誤 松井紀和副理事長13票 → 正 松井紀和副理事長4票

## ■ 支部情報（大会・講習会、総会などのお知らせ） ■

### § 北海道支部

【事務局】〒064-0916 北海道札幌市中央区南16条西7丁目1-7-406 久村研究室内

TEL & FAX 011-520-2605

第7回研修会、支部総会

開催日時：2005年6月5日（日） 10:00~17:00（予定）

開催場所：札幌市中央区南1条西22丁目1-1 浅井学園大学北方圏学術センター「ポルト」8F 大会議室

問合せ先：上記事務局

### § 東北支部

【事務局】〒020-0063 岩手県盛岡市材木町2-20 近文商店2階

FAX 019-651-7838 緊急 090-6252-5282

支部学術大会

開催日時：2005年11月19日（土）、11月20日（日）

開催場所：山形県山形市テルサ

問合せ先：上記事務局

### § 関東支部

【事務局】〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 聖徳大学 郡司研究室内

FAX 047-365-1145

2005年度地方会・講習会・総会

開催日時：2005年12月10日（土）講習会、12月11日（日）地方会・総会

開催場所：栃木県宇都宮市 宇都宮短期大学附属高等学校須加学園教育会館

問合せ先：上記事務局

### § 信越・北陸支部

【事務局】〒380-0803 長野県長野市三輪2-4-12

TEL & FAX 026-244-9431 E-mail miya86@f7.dion.ne.jp

### 第3回学術大会

開催日時：2005年6月11日（土）、6月12日（日）  
開催場所：ホテルメトロポリタン長野（JR長野駅前）  
問合せ先：〒380-0803 長野市三輪2-4-33 大会事務局  
TEL & FAX 026-263-7832

※大会事務局、支部事務局どちらに問い合わせても良い

### § 東海支部

【事務局】〒453-8540 愛知県名古屋市中村区稲葉地町7-1 名古屋音楽大学内 栗林研究室内  
TEL 052-411-1115（代） FAX 052-413-2300（代）

2005年度支部大会（開催済み）

開催日時：2005年4月24日（日）

開催場所：大垣女子短期大学

※次の大会の開催情報は学会ニュース10号に掲載します。

### § 近畿支部

【事務局】〒561-8555 大阪府豊中市庄内幸町1-1-8 大阪音楽大学内  
TEL & FAX 0774-25-2438 E-mail jmtak@guitar.ocn.ne.jp

第5回総会、講習会

開催日時：2005年7月16日（土）

開催場所：相愛大学

※申し込みは支部ホームページ <http://www.jmta-kansai.com/> から

### 第5回学術大会

開催日時：2006年3月25日（土）、3月26日（日）

開催場所：相愛大学

問合せ先：上記事務局

※支部事務局の電話番号・FAX番号が変わりました

### § 中国支部

【事務局】〒731-0295 広島県広島市安佐北区可部東1-2-1 広島文教女子大学 木村敦子研究室内  
TEL & FAX 082-814-3161 E-mail jmta-cc@h-bunkyo.ac.jp

第5回学術大会・講習会・支部総会

開催日時：2005年10月22日（土）、10月23日（日）

開催場所：日本赤十字看護大学

問合せ先：上記事務局

※支部事務局が上記へ移転しました

### § 四国支部

【事務局】〒783-0049 高知県南国市岡豊町中島1521-1 介護老人保健施設「夢の里」内  
TEL 088-866-6666 FAX 088-866-6783 E-mail yumenosato@chisio-group.or.jp

第2回学術大会

開催日時：2005年12月4日（日）

開催場所：〒799-2496 愛媛県松山市北条660 聖カタリナ大学

問合せ先：〒799-2461 愛媛県松山市鹿峰132-11 大会実行委員会事務局 藤井澄子

TEL & FAX 089-994-2698 E-mail s-s-fujii@muh.biglobe.ne.jp

### § 九州・沖縄支部

【事務局】〒807-0846 福岡県北九州市八幡西区里中3-12-12 八幡厚生病院内  
TEL 093-691-3344 FAX 093-603-7213

支部講習会

開催日時：2005年8月14日（日）

開催場所：アクロス福岡（福岡市）

支部大会・総会

開催日時：2006年1月下旬（未定）

開催場所：未定

問合せ先：上記事務局